



私が担当  
しました



### 小屋瀬小で認知症講座 思いやりの大切さ育む

9月11日、孫世代のための認知症講座が小屋瀬小学校(中村卓志校長、児童26人)の3、4年生12人を対象に行われました。

役場の担当者から認知症はどういう病気なのか説明を受けた児童たちは、真剣に耳を傾けていました。また、認知症の人への接し方を題材にした「サザエさん」の劇が行われると、児童たちは時折笑顔を見せながら楽しんでいました。

目黒音亮ちゃん(3年)は「困っているお年寄りがいたら、声を掛けてあげたい」と、優しく接することの大切さを学んだようでした。



楽しみながら認知症について理解を深める児童たち

### 葛巻小で俳句教室 情景描く力作揃う

葛巻小学校(佐藤隆司校長、児童111人)の俳句教室は9月12日に行われ、齋藤誠子さんを講師に5年生19人が俳句の表現を学びました。

児童らは友だちが考えた俳句を一つ一つ読み上げながら、それぞれが感じた情景を思い描き発表し合いました。

「キッチンでアイスー口 心がおどる」を発表した坂本辰之輔くんは「いろいろな気持ちをみんなしっかりと表現できていたので、いいなと思いました」と友だちの俳句を鑑賞し、関心を寄せていました。



自分の俳句を発表する遠藤亮銘くん(左)と講師の齋藤誠子さん

### 吉ヶ沢で閉校記念植樹 豊かな心育み成長願う

本年3月に閉校した吉ヶ沢小学校の「閉校記念植樹」は9月21日、同校で行われ児童や教職員、地域の人など約30人が参加し、カエデの苗木20本を植樹しました。

中家重夫実行委員長が「閉校後も子どもたちの成長を願っていました。これからも自分に負けないように頑張ってください」とあいさつ。子どもたちは地域の皆さんと一緒に手際よく植樹をしていました。芳田悠華さん(小屋瀬小6年)は「スクールバスで通る時に、成長を見守ってほしい」と母校に思いをはせていました。



トウガでカエデの苗木をしっかりと植える瀧澤慶次郎くん



出席者の意見や要望に答える県教育委員会の職員(左)

### 高校再編計画出前説明会 葛高存続への思い伝える

9月2日、県立葛巻高等学校同窓会(上家照男会長)主催の「高校再編計画(後期計画)に関する出前説明会」が総合センターで開催され、地域住民のほかPTAや学校関係者など約80人が出席し、活発な意見交換がされました。

県教育委員会の説明を受けた出席者たちからは「葛巻高校への入学を考えている小中学校の保護者は、長期的な学級数維持の提示を望む」「葛巻高校が地域の特色を学べる学校になれば新たな魅力になるのでは」など葛高存続と2学級維持に対する意見や要望が出されました。

### 商工会が買い物支援 出張にぎわい市開催

町商工会(吉澤信光会長)は9月8日、旧馬淵小学校で「出張にぎわい市」を開催し、地域住民ら約220人が来場しました。

出張にぎわい市は、商店がない地区の買い物支援を目的に平成25年から取り組みを開始。今回で14回目を数える事業です。当日は9店舗が並んだほか(有)上遠野工務店の展示会やステージショーなどが併せて開催され、訪れた人たちは「とても楽しいひとときを過ごすことができた」と話に花を咲かせながら、ゆっくりと交流を深めていました。



ステージショーを楽しむ来場者の皆さん【商工会提供】

### 「狂言」の芸術鑑賞会 中高生ら伝統芸能学ぶ

9月10日、中高連携事業として狂言の芸術鑑賞会が葛巻高校(木村基校長、生徒130人)の体育館で開催され、町内の中高生らが日本の伝統芸能を鑑賞しました。

演目の合間に狂言体験が行われ、各校を代表する生徒らが基本となる姿勢などを学びました。小向優弥さん(同校2年)は「構えの姿勢が思っていた以上に体勢がきつく、普段使わない筋肉を使いました。また、思っている以上の声を出さないとみんなに伝わらないことが分かりました」と狂言の奥深さを感じたようでした。



狂言の基本となる構えや歩き方の指導を受ける生徒たち